

【達成状況】

1989年に栃木県内初の日本語教育機関として発足したのち、近年は多くのアジア諸国からそれぞれ少人数の留学生（2020年3月現在では7か国から計20名）を受け入れて、1年及び1年6か月の2コースで計3クラスの小規模な体制による指導・教育をきめ細かく持続していると認められる。

当初（1929年）服飾専門学校として発足した設置者の学校法人は、本専門学校に現在も日本語学科とともに服飾関連の学科を設けているが、日本語学科には、留学期間ですでに服飾関連への将来志望を持つ留学生が入学し、修了後に併設の当該学科に進む者が少なくない（2020年3月時点では服飾関連学科在籍者40名の約8割が日本語学科修了生）。このこと自体、本校の実績ある特徴と認められるが、これに関連して、日本語学科の入学案内資料にはこうした進路の可能性が大学進学等と並べて特記されており、上記のような将来志望を持つ留学希望者に本校の特徴を伝える工夫として首肯できる。

入学者募集に関して、従来の実績を踏まえた限定的な仲介機関（7か国、計13機関）との間で相互の連絡を継続して、留学希望者への情報提供や仲介活動の適切性についての確認にも留意していることが認められる。また、選考段階では、本校関係者が現地で直接に試験・面接するよう努めていることや、試験問題・面接事項の準備やその経過・結果の記録状況についても資料から確認できた。

生活・学習・進路などに関する指導を、入学時以降、毎学期の折々に計画的に行っている。くり返し説明する授業や学校生活に関する規則など重要事項については、資料を用意したり母語通訳（職員・卒業生も含めて）を行ったりするなど、丁寧な対応が認められる。

通常の授業時間を1コマ80分とし、平日は1日3コマで午後2時に終業する独自のカリキュラムを永年継続していること、非漢字圏出身者用の初級漢字学習テキストを本校で作成し活用していることなど、教育活動実践における工夫や努力についても、評価すべき達成が認められる。

【課題・改善要望等】

学校運営を今後とも着実に持続するため、生徒の定員充足率を高めることが望まれる。

ホームページは、設置法人や他学科の情報と並列されているため、日本語学科のまとまりが希薄な印象がある。学科の課程、カリキュラム、学費、学校生活などの基本的情報、入学手続や進路の情報をより具体的に整理して記載するとともに、多言語化を図ることも含めて、充実させることが望ましい。

学則に示された内容と、別の文書に示されている具体的な規程や実施計画の内容との間で整合性・統一性を欠く事例が見られた。例えば、納入された学費の返還に関する規程、設置各コースの授業科目・授業時間の一覧表などである。これらは入学希望者や在学生にとって重要な情報であるので、学則・規程・計画資料等の内容を点検・改訂することが必要である。特に学費返還規程については、関連法規や日本語教育振興協会のガイドライン等を参照して見直し、ホームページにも掲載することを含めて、適切に開示することが望ましい。

現行の授業記録は、クラスを単位として1日の授業の記録が手書き資料として作成されている。このうち、教材使用・指導法・進捗状況などについての具体的・個別的な記入事項は、それらが集積されれば教材や教室運営等についての学校独自の貴重な情報資源になると思われることから、将来的には電子ファイル化することも視野に入れながら、授業記録の積極的な活用を目指した検討を期待したい。

教職員の業務評価については、今回の自己点検・評価に示された課題意識に沿って、評価の観点、手順、関与者、日程などを明示的な制度として定めて、着実に実行段階に進めることを期待する。